

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530645

研究課題名(和文) 社会的排除と反グローバリズム運動：底辺からの新しい共同性創出の可能性

研究課題名(英文) Social Exclusion and Anti-Globalism Movements

研究代表者

稲葉 奈々子 (INABA, Nanako)

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号：40302335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：新自由主義は社会的排除という新しい形の貧困を生み出した。それとともに、これまでの反貧困運動とは異なる特徴を備えた社会運動が1990年代の西ヨーロッパを中心に展開した。本研究はフランスと日本の反グローバリズム運動のなかで、社会的排除を経験する当事者に対するインタビューを行い、その特徴を明らかにした。経済的な貧困のみが問題ではなく、市場原理のみを基準として判断されて自己の存在価値を無用とされた個人の尊厳回復の過程を含む運動として立ち現れていた。そのため運動は、公正な再分配を求める運動であるとともに、傷ついた自己の尊厳を取り戻すアイデンティティ・ポリティクスとしての特徴も兼ね備えている。

研究成果の概要(英文)：Social movements against neo-liberalism are characterized by not only their claim for the redistribution of the wealth their identity politics orientation. Neo-liberalism is a policy which takes in consideration only the economic profitability and utility to evaluate a human being. Poverty is not only economic deprivation but a disqualification of an individual. This is the social exclusion. First, social movements is considered to be a process of the healing and acceptance of the socially excluded individuals. After that there occur the movements which try to do economic activity that will not exploit anybody. Movements appear as cooperative association. In Japan, this tendency is especially strong because social exclusion have much strong effect on individuals than in the other countries.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：社会運動 社会的排除 都市底辺層 ホームレス フランス 新自由主義 反貧困 グローバル化

1. 研究開始当初の背景

(1) 反グローバリズム運動の生起

2000年代以降、「反グローバリズム」運動が世界各地で活性化するようになった。「グローバリズム」は、1980年代のイギリスのサッチャリズム、アメリカ合衆国のレーガノミクス、日本の中曽根構造改革に端を発する新自由主義に反対する運動として欧米を中心に発達してきた。

(2) アメリカとヨーロッパの新自由主義的政策の相違と社会運動

新自由主義は、規制緩和による公共サービスの民営化や福祉削減を中心に進められてきたが、とくに1989年のベルリンの壁崩壊が、自由主義と市場経済に正当性の根拠を与え、90年代には新自由主義を加速させた。こうしたなかで、新自由主義を象徴する北米自由貿易協定(NAFTA)に抗議して1994年のメキシコのチアパス州のサパティスタ民族解放軍が蜂起、1997年にはEUのアムステルダム条約が社会条項を欠いていることから異議を申し立てるべく企画された「ヨーロッパ行進」、さらに1999年にはWTO閣僚会議に反対してシアトルで10万人を動員するデモが実現するなど、各地で反グローバリズム運動が展開していった。

そこで新自由主義によって引き起こされた新しいタイプの貧困問題に対応して、どのような社会運動が生じたかについて明らかにする研究を着想した。

2. 研究の目的

グローバリズム運動は、グローバルな市民社会の登場として注目されてきた。南北問題などグローバルな公正や貧困問題が反グローバリズム運動の重要なイシューであるにもかかわらず、その担い手はミドルクラスに限定され、そこから排除される貧困層の存在は看過されてきた。本研究は反グローバリズム運動のなかで、貧困層を担い手とする社会運動が生み出してきた運動のレパートリーである当事者による直接民主主義や自主管理の実践などを新しい共同性として明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 質的調査

本研究では質的調査として、フランスに拠点をおく「声なき者のネットワーク」の活動への参与観察と、このネットワークに参加するフランスと日本の貧困層の社会運動を担う当事者に対して聞き取り調査を行った。

(2) データの性質

「声なき者のネットワーク」が反G8運動

などグローバルなイベントに参加する際に集中的に聞き取り調査を行なうことで、個々のイベントを中心にして運動と担い手個人の日常の営みをエスノグラフィックに描きだすためのデータを収集した。それによって社会的排除を経験する貧困層の日常の経験が、ミドルクラス中心の反グローバリズムに対するオルタナティブ形成の基盤になっているという仮説を検証した。

4. 研究成果

(1) 新自由主義に特徴的な社会運動

本研究は、フランスと日本における都市底辺層の社会運動が、新自由主義的政策が引き起こした貧困に対応して生じたものであるならば、どのような特徴を持つのかを明らかにすることを目的とした。日本とフランスのホームレスを中心とし、移住労働者もふくむ都市底辺層の運動について社会調査を行い、活動家と運動に参加する都市底辺層の当事者に対するインタビューを行った。

(2) 経済的貧困にとどまらない問題領域としての社会的排除

結果としては、先行研究が指摘するように、新自由主義は経済的な意味での貧困のみならず、市場経済至上主義の観点からすると「無用」とみなされる個人の尊厳を否定し、個人が自己からの排除も経験するような形で現れる貧困であり、ヨーロッパでは1990年代から「社会的排除」と呼ばれてきた。

(3) 公正な再分配を求める運動

社会的排除に抗する運動は、反貧困運動であるがゆえに、公正な再分配を求める運動として展開する。そのさいに既存のシステムのなかで公正な再分配を求める運動として、まず現れる。

(4) 新たな共同性の発現

それだけではなく、システムとは異なる論理に基づく活動もあらわれる。具体的には、既存の労働市場への統合ではなく、働く者を搾取しないような協同組合型の運動として現れる。この後者の運動はフランスよりも日本においてみられる。

(5) 日本社会の社会的排除の特徴

理由としては、社会的排除が個人の尊厳を傷つける度合いが、日本のほうが強いがゆえと考えられる。そのため、日本ではまず、経済的な排除よりも、自己からの排除からの回復のほうが問題として迫り出しており、「居所」としての社会運動の機能に焦点があたっている。それゆえに既存のシステムへの統合を求めるよりも、自己や他者への配慮が十分な労働が構想される特徴があった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15 件)

Naoto HIGUCHI & Nanako INABA [2013] « Les vingt années perdues des travailleurs latino-américains au Japon : Analyse du taux de chômage de la population latino-américaine après la crise économique de 2008 » in *Hommes & Migrations*, No. 1302. (査読あり)

稲葉奈々子・樋口直人[2013]「滞日アルゼンチン系移民とジェンダー」『アジア太平洋研究センター年報』第 10 号、pp.42-48.(査読あり)

樋口直人・稲葉奈々子[2013]「フロレンシオ・バレラの野郎ども」『都市社会研究』第 5 号、pp.131-147. (査読あり)

稲葉奈々子・樋口直人[2013]「失われた 20 年 在日南米人はなぜ急減したのか」『人文コミュニケーション学科論集』第 14 号、pp.1-11. (査読なし)

大曲由起子・高谷幸・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子[2012]「『移住者と貧困』をめぐるアドボカシー—移住連貧困プロジェクトの取り組みから」『多言語・多文化—実践と研究』4 号。(査読あり)

原田峻・高木竜輔・松谷満・申琪榮・樋口直人・稲葉奈々子・成元哲[2012]「政権交代と社会運動をめぐるイシュー・アテンション：民主党政権前後を事例として」『茨城大学人文学部紀要人文コミュニケーション学科論集』13 号、pp.131-162. (査読あり)

原田峻・高木竜輔・松谷満・申琪榮・樋口直人・稲葉奈々子・成元哲[2012]「政権交代と社会運動 問題関心の表明と論点整理の試み」『中京大学現代社会学部紀要』第 5 巻第 2 号、pp.109-141. (査読なし)

Naoto HIGUCHI & Nanako INABA [2012], “Migrant Workers Enchanted with Consumer Society: Transnationalism and Global Consumer Culture in Bangladesh,” *Inter-Asia Cultural Studies*, 13(1), pp.1-14. (査読あり)

INABA Nanako [2012] Comparison of Poor People’s Participation in Social Movements in France and Japan, in Marc Humberto & Yoshimichi Sato eds., *Social Exclusion: Perspectives from France and Japan*, Trans-Pacific Press, pp. 102-115. (査読あり)

稲葉奈々子 [2011]「社会的排除に抗する社会運動のオルタナティブ性 日仏の貧困の当事者運動からの考察」『理論と動態』第 4 号、pp.8-23. (査読なし)

大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人[2011]「家族・ジェンダーからみる在日外国人—国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44 号、pp.11-25. (査読なし)

大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人[2011]「在日外国人の仕事—2000 年国勢調査データの分析から」『茨城大学地域総合研究所年報』44 号、pp.27-42.(査読なし)

大曲由起子・高谷幸・鍛冶致・稲葉奈々子・樋口直人[2011]「在学率と通学率から見る在日外国人青少年の教育 2000 年国勢調査データの分析から」『アジア太平洋研究センター年報』第 8 号、pp.31-38. (査読あり)

稲葉奈々子 [2011] 「<サンパビエ>の運動と反植民地主義言説 作動しなかったポストコロニアリズム」竹沢尚一郎編著『移民のヨーロッパ 国際比較の視点から』明石書店、pp.146-169. (査読なし)

Leny P. TOLENTINO & Nanako INABA, [2011] “The Story of Kalakasan and Migrant Filipinas” in, ed. Kumiko Fujimura-Fanselow, *Transforming Japan: How Feminism and Diversity are Making a Difference*, The Feminist Press, pp.199-212. (査読なし)

〔学会発表〕(計 9 件)

稲葉奈々子[2013.10.12] 「反貧困運動と行為者の形成 2000 年代の社会的排除をめぐる社会運動」(早稲田大学)

INABA Nanako [2012. 8.2] *How Migrant Women Successfully Appealed for a Change of the Anti-Domestic Violence Law in Japan*, (International Sociological Association, Buenos Aires, Universidad de Buenos Aires. (アルゼンチン)

INABA Nanako, [2012.7.9] *Encounter with Poor People’s Movements and Changing Logics of Social Movements against Social Exclusion in Japan since 1990s*, International Political Science Association, Madrid, Universidad Complutense. (スペイン)

樋口直人・稲葉奈々子 [2012.6.10] 「フロ

レンシオ・バレラの野郎ども 藤沢市湘南台
のアルゼンチン系コミュニティ、1988-2012」
(関東社会学会於帝京大学)

INABA Nanako, [2012.3.20] Voir les
*mouvements des « Sans » pour comprendre la
situation sociale après l'accident nucléaire,*
Colloque de la fondation maison des
sciences de l'homme--Table Ronde Vivre à
Fukushima ?- Japon : L'après-désastre. Paris,
Maison des Science de l'homme. (フランス)

稲葉奈々子 [2011.11.27] 「隠蔽された貧困
をいかにして可視化するのか 日本のデー
タが示す現状」第5回多言語・多文化社会研
究全国フォーラム(東京外国語大学)。

稲葉奈々子 [2011.6.19] テーマ部会 A 「反
リスク・反排除の社会運動」(討論者) 第 59
回関東社会学会 (明治大学) 。

INABA Nanako [2011.4.19] Le processus de
*dépaupérisation des femmes philippines au
Japon : création d'une nouvelle communauté,* 1er
CONGRÈS INTERNATIONAL
FRANCOPHONE DE PSYCHIATRIE
TRANSCULTURELLE, Paris, Hôpital
Européen George Pompidou. (フランス)

INABA Nanako [2011.4.1] The Framing
Process of the Anti-Poverty Movement in
Japan, Association for Asian Studies,
Honolulu, Hawai'i Convention Center.(アメリ
カ)

[その他]

ホームページ等

[http://info.ibaraki.ac.jp/Profiles/5/00
00428/profile.html](http://info.ibaraki.ac.jp/Profiles/5/0000428/profile.html)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

稲葉 奈々子 (INABA NANAKO)

茨城大学・人文学部・准教授

研究者番号 : 4 0 3 0 2 3 3 5

(2)研究分担者

無し ()

研究者番号 :

(3)連携研究者

無し ()

研究者番号 :